

お茶の水女子大学の1年

パク・ホンビ(韓国・淑明女子大学)

こんにちは。韓国の淑明女子大学から参りました交換留学生の朴・ホンビです。これからお茶の水で1年間あったことについてお話ししたいと思います。体験談の発表に先立ち、私の指導教員先生であるシン・ギヨン先生にお礼をお伝えしたいと思います。前学期にお会いした機会は少なかったが、シン先生はいつも優しく私の話を聞いてくださったし、同じ国籍の女性の方が外国の名門大学で活躍されている姿を見て、私も先生のように素敵な女性になりたいと思いました。韓国に帰っても先生とずっと連絡が取れたら本当に嬉しいです。もう一度、本当にありがとうございました。

韓国に住んでいた時、日本旅行はもちろん、韓国にある日本語の言語交換カフェで数ヶ月間ボランティアをしたことがあります。しかしそれだけでは日本を正しく理解することが難しいと感じ、日本学を専攻する者として日本に住むことは選択ではなく必須だと考え、日本留学を決心するようになりました。

初めてここに来たときは、N3程度の日本語を駆使したと記憶しています。とても基本的な言葉や表現を駆使していて、ひらがなやカタカナを読むさえも時間がかかりかかりました。日本に来る前、韓国の大学の先生は私に大変でも留学生の授業ではなく学部の授業を受けるように助言してくれましたが、日本の学生が大半を占めている学部の授業に追いつくことは到底難しく、受講訂正期間中に留学生の授業中心に変更しました。留学生の授業の中で一番記憶に残っている授業は、池田先生の「日本事情II」という授業で、日本の歴史、特に江戸の歴史について調べて、お茶の水付属小学生たちとの交流会がある授業でした。この授業を通じて日本の小学校の事情について学び、子供たちが韓国をどの様に認識しているのかということについて聞くことができました。日本の国立小学生たちは入学試験を受けて来る優秀な子供たちだと聞きましたが、やはり彼らの質問は水準が高かったです。日韓関係に関する政治的な質問もしたり、韓国の企業と主産業について質問したりするなど、レベルが小学生のレベルとは思えない質問がたくさんありました。学部の授業としては「東アジア社会論」という科目を受講しましたが、ほとんどの学生が日本人の授業でした。韓国、中国、日本社会について3年に一回毎に回りながら行われる講義で、今年は幸運にも韓国社会について扱いました。実際に韓国人が授業に参加するようになって先生もとても喜んでいらっしゃいました。私は韓国人の代表として発言する立場にいたので、できるだけ慎重で中立的な発言をするように努力しましたが、政治的、社会的な複雑な問題に関しては、韓国側に感情移入してしまうこともありました。しかしその授業を通じて日本人の学生たちと親しくなるとても良かったです。

次は日本の生活についてお話します。元々韓国でも寮生活をしてきたので、ご飯を作って食べて洗濯したり掃除したりすることは大変なことではなかったです。前学期には特に韓国人の留学生が多かったので、彼女たちにいろいろたすけてもらいました。1月末からは『田巻屋』という由緒がある呉服店でインターンシップをはじめました。そこで日本の伝統衣装の歴史や背景を知り、客を接待する日本の文化について学ぶことになりました。仕事を始めたばかりなのに、『田巻屋』の方々には毎回私を家族行事や夕食に招待してくれるなど、娘のように接してくれました。現在は本郷三丁目にあるドトールでアルバイトをしていますが本当に楽しく働いています。同じくらいの年の大学生の同僚たちが多くて閉店後一緒に食事に行ったり、シフトのない日にも来ておし

やべりをしたり、勉強もします。韓国を含めてこんなに長くバイトをしたことも初めてで、バイト先で会った人とここまで仲良くなったのも初めてです。韓国に帰ったら彼らが一番懐かしくなると思います。

前半を新しい文化、言語、環境に適応するため過ごしたので、後半は頑張って自己開発もして積極的な学校生活を送りたいと思いましたが、コロナの影響で計画していた全てが無駄になってしまいました。身体活動が急減し、太ってしまったり、旅行も行けなくて、準備した試験も中止になって、企業説明会も行けなくなったのは残念ですが、久しぶりに仕事も休んで、本も沢山読んで、ネットフリックスも思う存分見るなど、悠々自適な時間を過ごすことができてよかったです。本来は途中で韓国に帰ろうかと何度も考えていましたが、コロナの長期化で今後も日本への往来が難しくなりそうで、結局残ることにしました。私は2週間後、日本を発ちますが、ここでのいい思い出は全部持って行きます。後悔のない素敵な1年でした。ありがとうございました。

